

# 退院調整活動に対する病棟看護師の意識の变革

## —勉強会前後のアンケートから—

B棟8階 ◎浅井 啓子 上窪 好美 刀根 心平

はじめに

今日在院日数の短縮化が叫ばれて久しく、当院でも急性期病院として DPC 等の導入により入院日数の短縮化が図られてきた。昨年度の平均在院日数では B 棟 8 階病棟においても眼科 11.98 日、耳鼻咽喉科 17.68 日、血液内科 30.84 日と、絶対的に短くなってきている。だが、病院の持つ機能の特殊性から、患者の高齢化、医療依存度の高い患者の増加、家族機能の変化などにより、退院調整が複雑化しているという現状がある。眼科では術後の視力低下に伴う日常生活のサポートを始め、糖尿病等合併症に対しての日常生活での注意点に関する教育が必要であり、また、耳鼻咽喉科では喉頭摘出による身体障害者の申請手続き及び吸引器の購入などに関する情報提供等、看護師の担う役割は大きい。しかし、退院間近や当日になって医療相談を頼るケースも少なくないという現状において、在院日数短縮に伴う退院調整看護師の存在が求められ、同時に病棟看護師一人一人の活動は重要な鍵であると言える。

今回私達は、当病棟の看護師が患者に情報提供するにあたって活用できる社会資源や、

当院での地域連携室の活動内容について、現状および勉強会後の認識を知るためアンケート調査を行い、また、認識度向上のために、勉強会を地域医療連携室・医療相談室にそれぞれ依頼し行った。その結果並びに今後の課題について知見を得られたので、ここに報告する。

### 1) 期間

2008 年 8 月 25 日～2008 年 10 月 4 日

### 2) 方法

①勉強会前アンケート調査（質問紙法）2008 年 8 月 24 日～8 月 29 日

②勉強会 2008 年 9 月 5 日 17 時 30 分～医療相談室に、社会資源の利用について（高額医療費、特定疾患公費負担制度、身体障害者手帳等）、地域医療連携室に、当院での地域連携室の活動内容・他院との連携の流れという内容で勉強会を開催していただき、当病棟の看護師 10 名（研究メンバー除く）が参加した。

③勉強会後のアンケート調査（質問紙法）2008 年 9 月 29 日～10 月 9 日

### 3) 調査対象

B 病棟 8 階看護師 22 名

#### 4)調査内容

表1 参照

#### 5)倫理的配慮

対象となる看護師に対して、調査目的、調査内容、不参加であっても不利益が生じないこと、プライバシーの保護を徹底すること。以上説明し、同意を得た。

#### 結果

勉強会前後のアンケートは、それぞれ、勉強会前アンケート配布22件、回収22件（回収率100%）勉強会後のアンケート配布10件、回収10件（回収率100%）であった。

勉強会前に表1のアンケートを行ったところ、退院調整活動というものがあることを知っているか？という質問に対して、「はい」:10人（48%）、「いいえ」:11人（52%）であった（図1）。このうち「はい」と答えた10人に対して設問2での質問をしたところ、図2のような結果になった（図2）。

続いて、設問1で退院調整活動を知らないと回答した11人中「興味はありますか？」という質問に対して「はい」と回答したのは9人であり、「なぜ知らなかったのか」という設問を設けたところ全員が「今まで退院調整についての情報を得る機会（勉強会等）がなかったから」と回答している。

また、設問4に関しても図3のような結果になった（図3）。

このうち「必要だと思うが、意識して関わっていない」と回答した理由として、「退院調整活動に関してどういったことをしていけばいいのかよくわからない」「どこに相談（依頼）していいのか分らない」「入院期間が短く、十分に関わることが難しい」という意見が多くみられた。

これらの意見を参考にし、医療相談室と地域医療連携室への勉強会を依頼し開催した。勉強会後に参加者へのアンケートを実施したところ、退院調整活動というものがあることを知

っているか？という質問に対して、「はい」:10人（100%）という結果であった。

さらに、勉強会後に自由記述で今後の退院調整に関しての意見を聞いたところ、「具体的なマニュアルがあればよい」「みんなで共有するためには、勉強会は必要」「勉強会には看護師だけでなく医師の参加も必要（病床稼働率・在院日数短縮のため）」「地域医療連携室・医療相談室との連携がうまくいかないのは何故か、考えていく必要がある」「今回の勉強会でどういふことをしているのか少しわかった」「興味が持てた」「急性期病棟としての役割を理解し、次の転院先や自宅療養に当たっての情報を提供してき、患者自身が選択できるよう関わっていくべきである」等の意見が見られた。

#### 考察

今回の調査の結果、病棟全体で退院調整活動を認知していないスタッフが多く見られた。理由として、退院調整活動に対しての情報を得る場（勉強会・院内研修会等）が無かった為と回答している。興味はあっても実際に勉強しようとする行動に移すきっかけが少なく、消極的であり、また、そのような状態にあるスタッフに対して意欲向上を促す意味も含めての知識普及・伝達の間が少ないという現状があると考えられる。

そこで勉強会後、参加者へのアンケートを実施し、「興味が持てた」「どういうことをしているのか少しわかった」と肯定的な意見が見られたことから、勉強会を行ったことが、認知度・興味の向上につながったと考えられる。

また、当病棟で退院調整活動は必要か？という質問に対しては、「必要だが、今後関わろうとは思っていない」という回答が勉強会前は17人であったが、勉強会後は1人に減少しており、勉強会にて知識を普及することで退院調整活動への興味を深め、意欲の向上につながったと考えられる。

しかし、勉強会後も退院調整活動の必要性

に関して「必要だが、今後関わろうとは思わない」との回答者がいる。その理由として、「勉強会で話を聞いたが、関わり方が具体的によくわからない」という回答があった。この意見から、一度だけの勉強会では、初歩的な内容から理解していないスタッフもいることが明らかとなり、もっと基本的な知識の伝達や継続的に勉強会を行うことも今後必要な課題であると考えられる。

しかしながら、退院調整活動は看護師のみで行っているものではなく、今回のアンケートでも、「勉強会には看護師だけでなく医師の参加も必要(病床稼働率・在院日数短縮のため)」という意見も見られた。山崎は「退院計画(調整)は個々の患者の受け持ち看護師の任務であると同時に、病院全体でシステムを作り全体のチームで進めていくことが求められる」と述べている。また、当院では急性期病院の持つ特殊性から、医療依存度の高い患者や高齢の患者の増加に伴い、退院後の継続医療に対するの支援も必要となってくる。このことから、入院中における看護師の役割が重要視されてきているが、今回の勉強会の時点ではまだまだ意識は低く、勉強会に参加したスタッフでさえ関わるべき内容の把握には至っていないのが現状である。

今後は医師やその他職種を含めたチーム医療を意識して連携を取ることが必要であると考えられ、病診連携・病病連携が重要となってくる。当病棟でも、まずは担当医を含めた合同カンファレンスの実施や、クリニックへ退院調整活動の内容を盛り込む等の工夫をしていくことが

課題となってくると考えられる。

#### まとめ

1. 当病棟では退院調整活動に対してスタッフ間で十分な知識が浸透していない。
2. 勉強会を行うことで意欲の向上がみられた。
3. 退院調整活動を行っていくにあたって、今後も継続的な知識の伝達・普及の場を設けていくことが必要である。
4. 退院調整活動は看護師のみで行うものではないため、いかに他職種との連携を図っていくかも今後の課題となる。

#### 引用文献

1)山崎摩耶：患者とともに創める退院調整が「トブ」クリニックから看看連携へ、第2版、中央法規出版株式会社、pp.47, 2007

#### 参考文献

1)社団法人日本精神科看護技術協会 2004 年度ディスチャージプランナー養成支援活動テキスト編集委員会:退院調整チームにおける看護師の役割と機能、社団法人日本精神科看護技術協会、2005.

2)小平廣子:第31回日本看護学会論文集 - 老年看護 -, 日本看護協会, pp. 32-34, 2000.

3)淡路典子ほか:第37回日本看護協会論文集 - 老年看護 -, 日本看護協会, pp. 160-162, 2006.

4)野間もえぎほか:第36回日本看護協会論文集 - 老年看護 -, 日本看護協会, pp. 74-76, 2005.

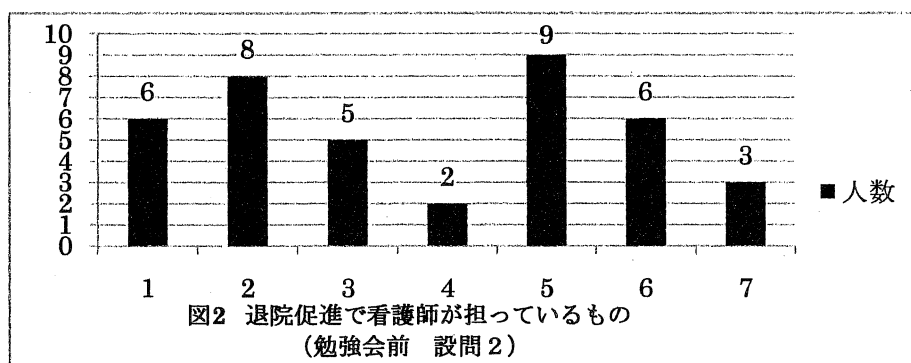
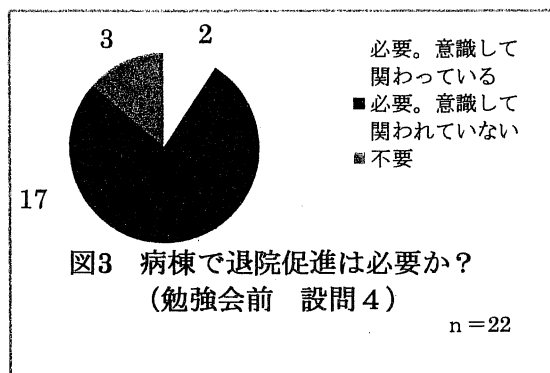
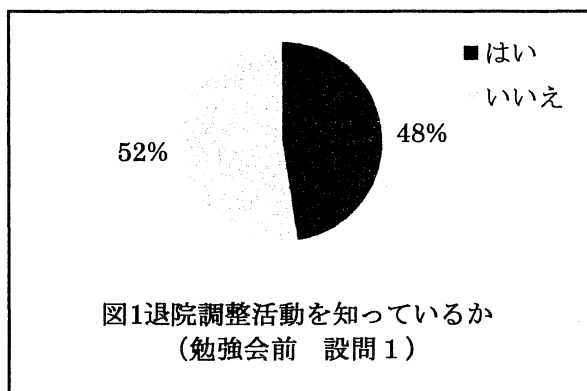


表1 勉強会前アンケートより抜粋

設問1 「退院調整（促進）事業」というものがあることを知っていますか？

1・はい 2・いいえ

設問2 設問1で「はい」と答えた方にお聞きます。「退院促進事業」について、看護師が担っている役割について、当てはまると思うものをチェックして下さい（複数回答可）

1. 入院患者の退院先を確認する
2. 入院時から退院後の生活をイメージした指導を行っていく
3. 入院時に、今まで受けていたサービスとケアマネジャーの存在を確認する
4. 退院後の施設や病院（転院先）を探す必要のある場合は、他院と連絡を取り合う
5. 継続ケアに必要なケアを準備する。
6. 退院後のケアや医療の調整が必要な場合は、退院調整担当の看護師に依頼する
7. 治療終了後も退院に対して困難をきたすであろう患者をリストアップする

設問3 設問1で「いいえ」と答えた方にお聞きます。退院促進事業が何なのか、どのような事を行っているのか、興味はありますか？また、なぜ知らなかったのか、その理由もお答えください。

1. はい 2. いいえ

知らなかった理由は…

1. 特に興味がなかった
2. 今まで退院促進に関する情報を得る機会（勉強会等）がなかった為
3. 今までの看護の中で、退院促進の介入が特に必要ないと感じていたから
4. その他

設問4 当病棟では退院促進の関わりが必要だと思われますか？また、必要だと思われた方は、そういった関わりを意識して行っていたかどうか、もし行えていないとすれば、なぜだと思えるか、よければ理由も記入ください

1. 必要だと思うし、意識して関わっている
2. 必要だと思うが、意識して関わっていない
3. 必要だと思わない